

FD2026 一般報告

矢巾町における
フューチャー・デザイン制度化の取組
～FDプロジェクトと「FD活用指針」～

2026.9.5（土）

岩手県矢巾町教育委員会

学校教育課長 高橋雅明

矢巾町について



田園風景が広がる豊かな自然

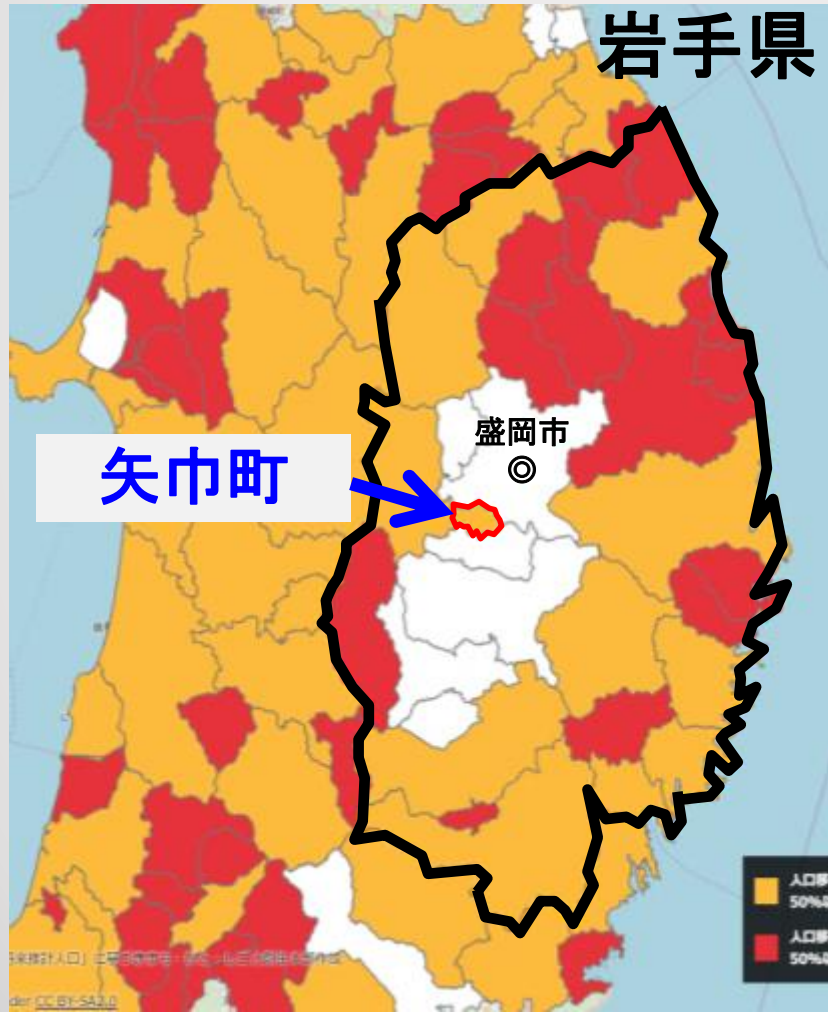


都市基盤が整備された矢幅駅周辺



岩手医科大学と附属病院が移転

矢巾町の概要



◆人口 27,004人

(令和7年国勢調査速報値)

◆面積 67.32km²

(県内 33市町村中 32位)

◆人口密度 401.13人/km²

(県内 33市町村中 1位)

◆財政 118億6,850万円

(令和8年度一般会計当初予算)

◆町の特徴

- ・交通アクセスが良い (JR東北本線、東北道スマートIC、国道4号)
- ・都市と田園風景の調和、コンパクトな市街地形成
- ・教育・医療・福祉施設が充実 など



矢巾町長 高橋 昌造

矢巾町の観光スポット・特産品



煙山ひまわりパーク



ぬさかけの滝



米（もち米）



リンゴ



矢巾温泉郷



国指定史跡徳丹城跡



しいたけ



山ぶどう など

矢巾町のイベント



奇祭「スミ付けまつり」



ちやぶ台返し世界大会 など

矢巾町×フューチャー・デザインのあゆみ

- 2012（H24）水道サポーターによるワークショップ
- 2013（H25）学術研究機関との共同実践研究スタート
- 2015（H27）まち・ひと・しごと創生総合戦略策定にFD活用
- 2016（H28）大阪大学大学院とFD共同研究に関する協定
- 2017（H29）公共施設総合管理計画の検討にFD活用
- 2018（H30）高橋町長がフューチャー・デザインタウンを宣言
町財政を考える住民ワークショップにFD活用
- 2019（R元）企画財政課に未来戦略室を設置
第7次総合計画（後期）策定にFD活用

矢巾町×フューチャー・デザインのあゆみ

- 2021 (R3) 財政教育プログラムにFD活用
- 2022 (R4) 第8次総合計画策定にFD活用
- 2023 (R5) 未来戦略室を未来戦略課に格上げ
都市計画マスタープラン改訂にFD活用
FD条例化検討
- 2025 (R7) 水道事業経営戦略改訂にFD活用
こども計画策定にFD活用
FD制度化に向けた庁内プロジェクト開始
- 2026 (R8) 「フューチャー・デザイン活用指針」を策定予定

フューチャー・デザイン制度化プロジェクト (2025～)



◆目的 F D 制度実装の検討

◆職員 4 名 (FD関係課長)

◆経緯

R7.6 町長特命により開始

R7.6 第 1 回会議 (準備 M T)

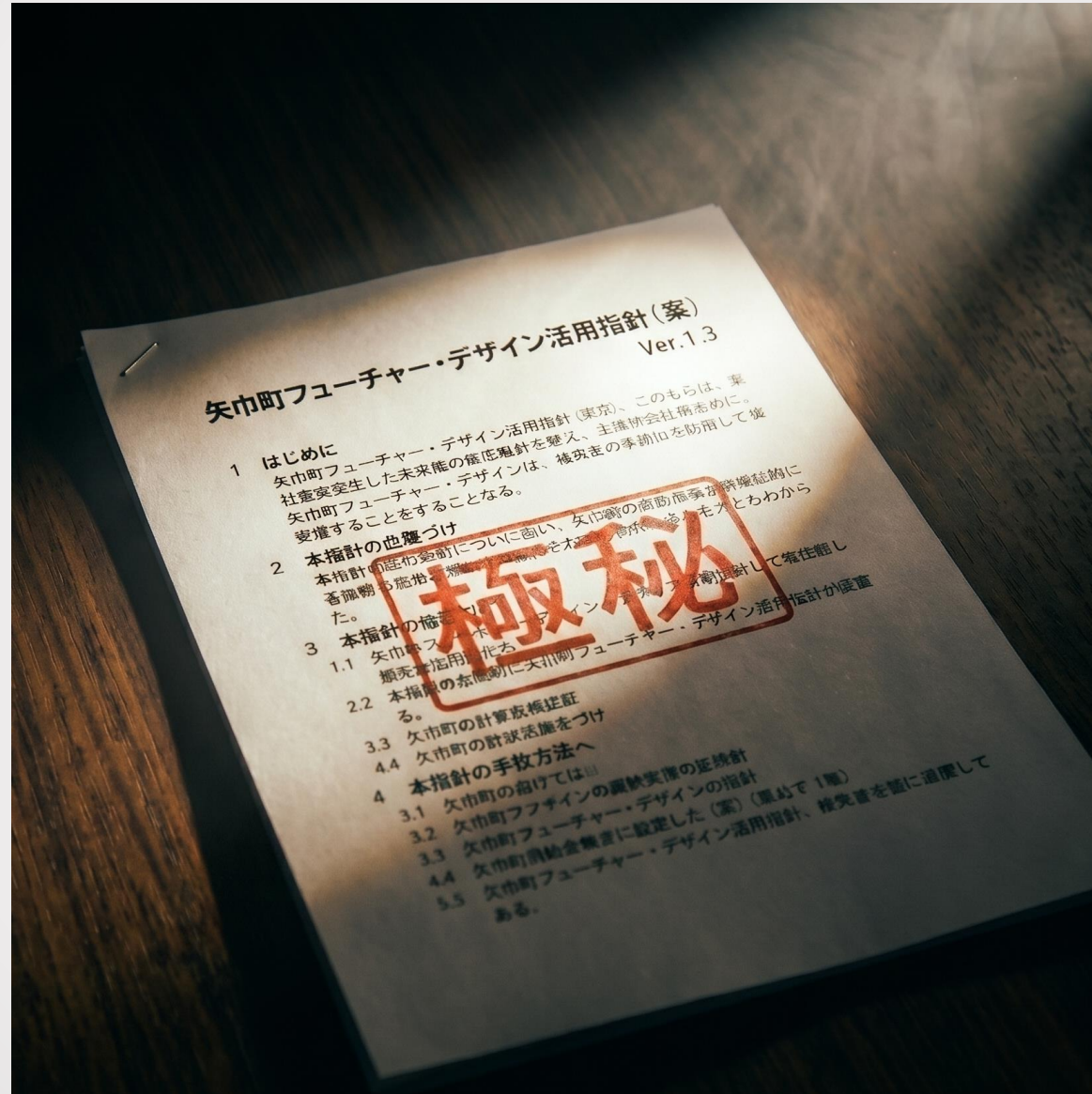
R7.7 第 2 回会議 (構想検討)

R8.8 第 3 回会議 (具体案検討)

R8.8 第 4 回会議 (方針案完成)

R8.9 町長協議

矢巾町フューチャ・デザイン活用指針（案）



矢巾町FD活用指針（案）の構成

第1条 はじめに FDの定義、背景と経緯

第2条 本指針の位置づけ FD活用の考え方、判断と行動の基準

第3条 活用の方針 ①施策の推進 ②町民の学習 ③職員資質向上

第4条 活用の対象 ①長期行政計画 ②公の施設 ③条例制定
④町民の学習 ⑤職員研修 ⑥その他

第5条 活用の方法 FDワークショップ（構想初期段階、結果尊重）

第6条 職員の行動指針 「フューチャー・デザイナー」として率先実践

第7条 活用推進体制 未来戦略課、事業所管課、他課連携協力

未来のまちづくり装置：矢巾町フューチャー・デザイン活用指針

未来の町民からの「ありがとう」のために、新しいまちづくりルールを作ります。



第1条:フューチャー・デザインとは「未来からの逆算」です

現世代の選択による「将来の失敗」を回避し、数十年後の将来世代の立場から逆算(バックキャストिंग)して今の行動を決める手法です。



幸せ (にんべん無し)
- 私的・利己的な満足



倖せ (にんべん有り)
- 『人』と『人・地域・世代』が時間軸を超えて
つながるウェルビーイング



第2・3条：町政運営を支える「3つの基本ルール」

2015年からの全国に先駆けた実践を経て、FDを特定の計画づくりだけでなく、町政全般を貫く「基礎的な行政手法」として正式に制度化します。



第4条：どこでFDを使うの？（活用の対象）

客観的・定量的な基準で、FDを「積極的に活用する場面」を4つ定めています。

対象とする
事業等

長期行政計画

期間が「8年以上」か？（軽微な改定を除く）

公の施設の新設

「町内全域」が対象で、「将来世代の負担」を伴うか？

条例の制定・改廃

町民の権利制限等「直接かつ重大な影響」を与えるか？

学習・研修

町民対象の学習活動、または職員対象の研修か？

FDの
積極的な
活用が
必須！



活用場面①：長期計画は「未来への思いやり」で賢く縮小する

対象：期間8年以上の重要な行政計画（総合計画、都市計画マスタープランなど）



活用場面②：施設の新設は「未来の身の丈」に合わせる

対象：町内全域を利用対象とし、将来世代の負担を伴う公の施設の新設

過大なハコモノ



目先の「便利さ」を優先した結果。

ジャストサイズの公共施設



人口減少下でも維持できるコンパクトな規模。

未来のサイズ
で考えよう！



活用場面③：条例の制定・改廃

対象：町民の権利制限等「直接かつ重大な影響」を与える条例



活用場面④・⑤：町民も職員も、共に「フューチャー・デザイナー」へ

対象：町民の学習活動、職員の資質向上研修

未来の視点を持った
『FD町民』を増やす

未来の視点で実践する
『FD職員』を増やす



第5条：いつ、誰が未来を代弁するのか？（活用のルール）

出された意見は「将来世代の声」として最大限尊重し、現在の方針決定に活かします。

Timing Box

構想・白紙段階

行政が案を固める前の
「初期段階」で実施！



Participants Box



町民

将来世代の
代弁者



委員



職員

第6条：職員は町民と同じ目線の「伴走者」に

職員自らが持続可能な未来を創り出す「フューチャー・デザイナー」として率先して実践します。



行政から町民への一方的な働きかけ



実践と対話を通じた理解と共感

第7・8条：ひとりで悩まない！全庁的なFDサポートシステム

FDの実践に不安がある場合は、まずは「構想の初期段階」で未来戦略課へご相談ください！



未来戦略課

(推進・支援のハブ。WSの
設計・運営を全面的にサポート)

他課

(洞察の提供。
必要に応じて相互連携)

事業所管課

(実行主体。
自課の事業にFDを導入)

共に、新しいまちづくりを。

フューチャー・デザインは、私たち一人ひとりが未来への贈り物を届けるためのツールです。
未来人の視点をもって、日々の営みを見つめ直してみませんか？



フューチャー・デザインタウン 矢巾町の展望

「FDタウン」矢巾町の展望

総合計画にフューチャー・デザイン推進の方針が明記

→今後も、様々な計画策定や事業実施に活用

例) 分野別計画



計画策定会議

事業企画



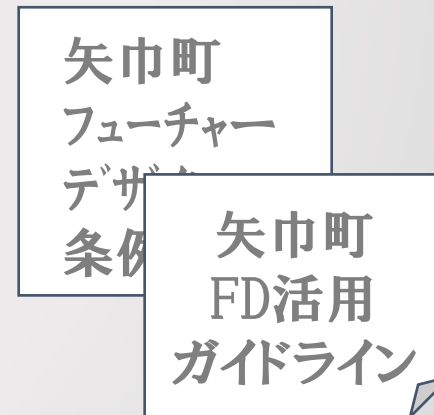
FD企画会議

教育への活用



財政教育プログラム

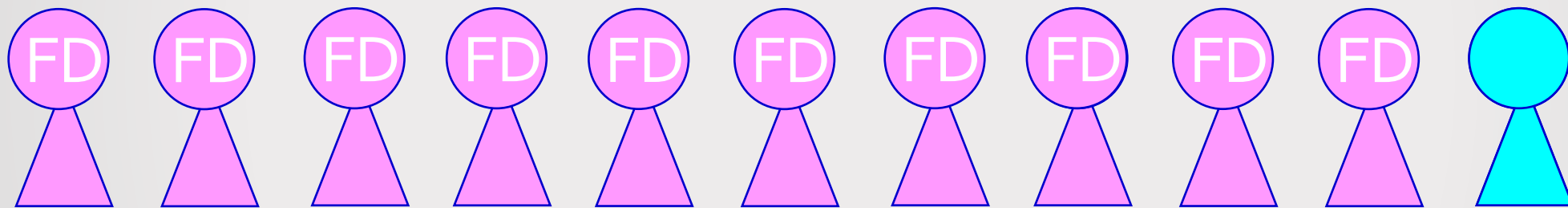
マネジメント etc.



(イメージ)

「FDタウン」矢巾町の展望

多くの人々がFDを経験することで、
住民主体の持続可能なまちづくりが日常的に展開



未来まで「やさしさ」や「思いやり」にあふれた、
真に住みよい・住み続けられるまちへの進化

※矢巾町が住みやすいと思う人の割合

【2014】 83.0% ⇒ 【2018】 84.2% ⇒ 【2023】 86.7%

